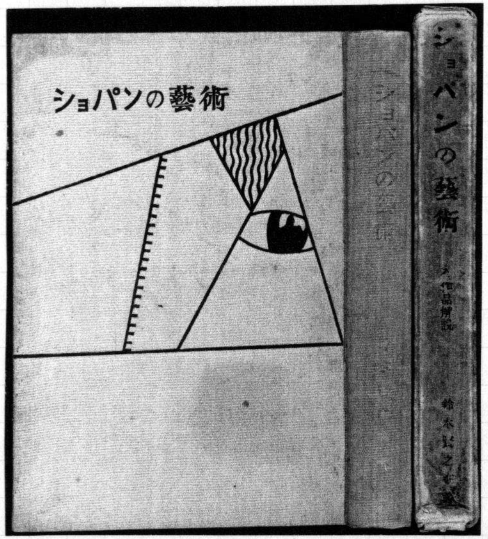
鈴木賢之進（すずき けんのしん）　音樂評論家。明治二十九年四月神奈川縣生れ（一八九六―）。東京音樂學校卒。ピアニストで作曲も手掛けた。

譯書に、ジェームズ・ハネカー著『ショパンの生涯』（大正十一年十一月五日葡萄樹社）、同『ショパンの藝術（全作品解説）』（大正十三年七月十日十字屋樂器店）、『ニーチェとヴァークナー』（編譯、昭和九年一月五日叢文閣）、『ベートーヴェンの手紙』（昭和十一年六月五日音樂世界社「樂聖叢書第一篇」）等。著書『機械藝術論』（合著・「新興藝術」編、昭和五年五月二十八日天人社「新藝術論システム」）、『トルストイの音樂觀』（昭和十一年六月二十日音樂世界社）等。